

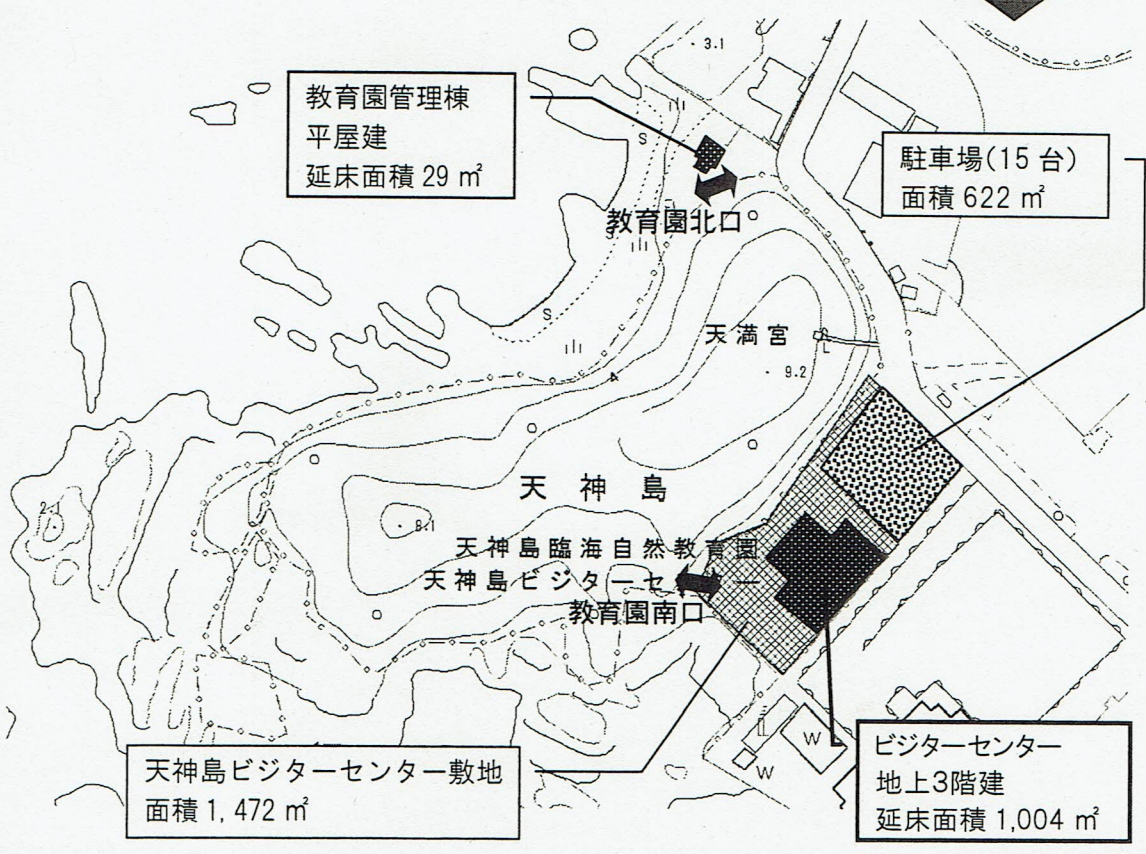
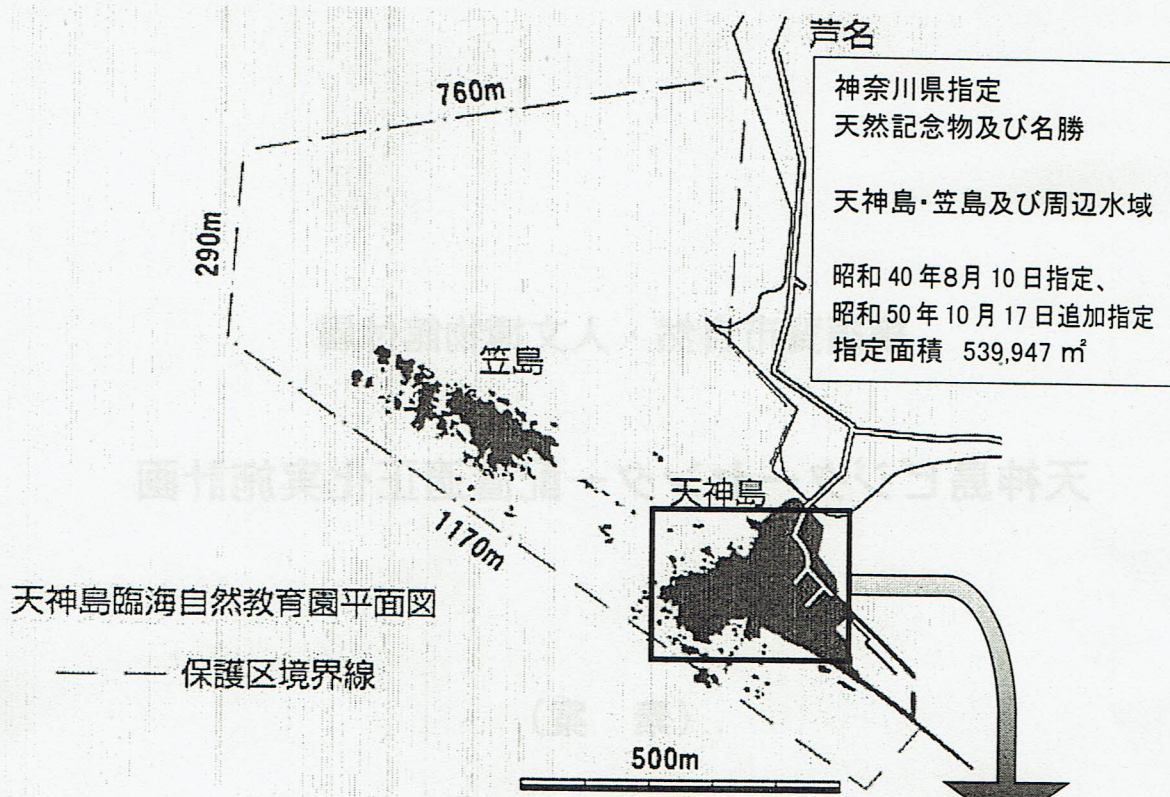
横須賀市自然・人文博物館付属

天神島ビジターセンター配置適正化実施計画

(素案)



【天神島ビジターセンター及び天神島臨海自然教育園の所在地】



第1章 横須賀市自然・人文博物館付属

天神島ビジターセンター配置適正化実施計画について

1 計画の目的

本市にある公共施設の約6割は、建築後30年以上となっており、今後建て替えや改修など、多額の更新費用が必要となります。

そこで、平成26年度に施設の適正な配置を実現するための将来構想として、「横須賀市施設配置適正化計画」（以下「適正化計画」）を策定しました。

「天神島ビジターセンター配置適正化実施計画」は、「適正化計画」で示した将来構想を実現し、着実に進めるために策定するものです。

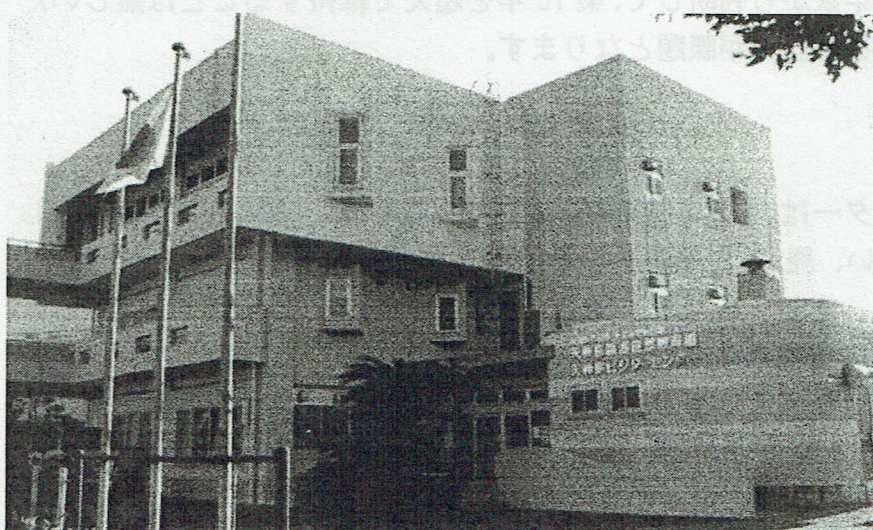
2 計画の期間

全体の計画期間は、最終年度を「適正化計画」の計画期間と合わせ、平成28年度（2016年度）から平成64年度（2052年度）とし、その間の目標およびそれに向けた考え方・ロードマップを示します。

3 計画の対象施設

本計画の対象となる施設は、以下のとおりです。鉄筋コンクリート造3階建て、延床面積は981.55㎡です。他に電気室1棟（22.5㎡）があります。

施設名称	行政地区	所在地	建築年度	経過年数
天神島ビジターセンター	西	佐島3-7-2	昭和41年度 (1966年度)	50年



天神島ビジターセンター

天神島ビジターセンターは、神奈川県から無償譲渡された青少年宿泊研修施設を改装して平成 11 年に開館しました。

その後、現在に至るまで、天神島臨海自然教育園（注 1）とその周辺の自然や民俗について学習する施設として利用されています。

天神島ビジターセンターが所在する土地は、神奈川県から無償で貸与されています（注 2）。この土地の西端には天神島臨海自然教育園の南口が所在し、津波等災害時の緊急避難口を兼ねています。

また、天神島臨海自然教育園の駐車場（注 3）にも隣接していることから、天神島ビジターセンターおよび天神島臨海自然教育園の活用の上でとても有益かつ不可欠な土地です。

注 1 「天神島臨海自然教育園」 神奈川県が指定する名勝及び天然記念物「天神島、笠島及び周辺水域」の保存と活用を目的にした博物館付属の自然教育園で、昭和 41 年に開園。面積は海域を含めて 539,947 m²。天神島の北側に自然教育園の北口があり、その脇に管理棟 1 棟（延床面積 29 m²）が所在。

注 2 「土地の無償貸与」 土地の面積は 1474.61 m²。土地使用貸借契約書に使用用途として、「青少年の健全育成及び市民の文化教養の向上を図る行政拠点の用としてのみ使用」とある。

注 3 「駐車場」 市有地。面積=622.66 m²、乗用車 15 台。駐車料金は無料。駐車場の利用台数は、H25=4,232 台、H26=4,232 台、H27=4,626 台。

4 対象施設の課題

天神島ビジターセンターは、天神島臨海自然教育園に隣接し、博物館のサテライト機能やトイレ等の便益機能を有する施設として、年間 2 万人程度に利用されています（平成 26 年度 18,052 人、平成 27 年度 22,865 人）。

そのような利用状況の中で、築 50 年を経過した建物であることから、鉄筋コンクリート造建造物の耐用年数から判断して、築 70 年を超えて維持することは難しいため、改修ならびに建て替え計画が課題となります。

5 見直しの方向性

天神島ビジターセンターは、「適正化計画」における適正化に向けた取り組みとして「施設の老朽化に伴い、廃止」、適正化の方向として「縮減（100%）」と位置付けられました。

ただし、天神島臨海自然教育園の利活用を進めていく上で、来園者に対する便益機能や自然教育園の価値を伝える展示・教育機能は必要であり、施設を建て替える方向で見直していきます。施設規模は、「適正化計画」の目的に沿って縮減率を大きく確保することを課題とします。

第2章 天神島ビジターセンターを取り巻く現状と課題

1 施設の現状

天神島ビジターセンターは、天神島臨海自然教育園とその周辺の自然や民俗について学習する施設として、展示ホールや展示室2室があるほか、学習室や講座室等を設けています。

その他、トイレ・水道等の便益機能、非常勤職員等の事務室などを備えています。

利用料金は無料で、会議室等がありますが貸室事業は行っていません。

開館時間は、4月から9月までが9時から17時、10月から3月までが9時から16時30分です。休館日は、博物館本館に準じ、月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）と年末年始（12月29日から1月3日）です。

天神島ビジターセンターの概要

館内・館外	名称	面積 (㎡)	その他の機能
1階	展示ホール	93.960	空調設備 給排水衛生設備 エレベータ設備
	学習室	36.000	
	資料室	36.000	
	事務室	32.040	
	トイレ・通路・階段等	185.570	
	計	383.570	
2階	展示室1	36.000	
	展示室2	36.000	
	図書室	36.000	
	研究室	36.000	
	控室	10.400	
	トイレ・通路・階段等	98.200	
	計	252.600	
3階	講座室	135.390	
	集会室	39.960	
	会議室	39.960	
	トイレ・通路・階段等	133.070	
	計	345.380	
小計		981.550	
館外	電気室	22.500	手足洗い場
合計		1,004.050	

※ 構造 鉄筋コンクリート造3階建

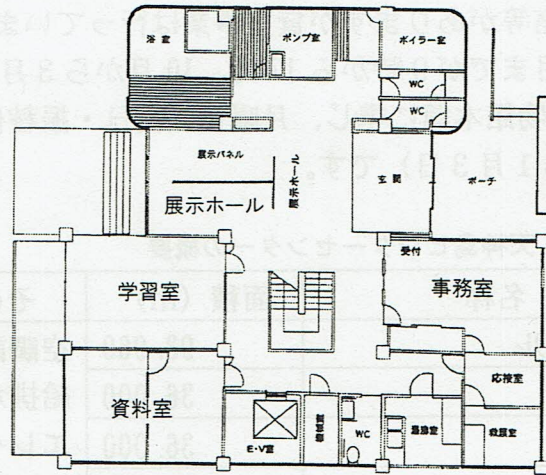
- ※ 評価額 279,381,000円 (平成27年4月1日現在)
- ※ 維持管理経費 年間=6,171,222円 (利用者一人当たり=270円)

2 利用状況

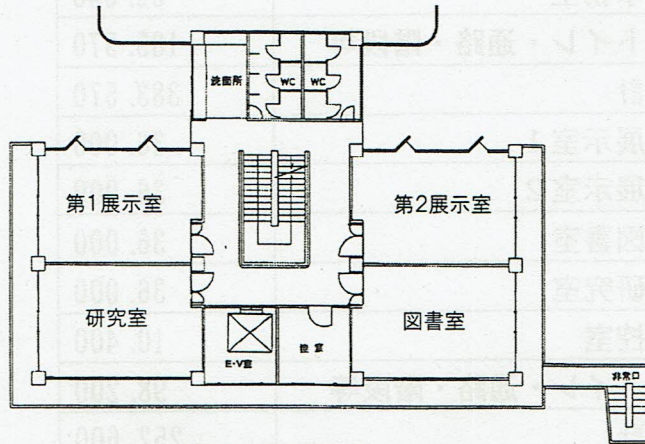
天神島ビジターセンターの過去5年間の利用状況は、次のとおりです。

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
年間利用延人数	12,693人	15,504人	17,570人	18,052人	22,865人

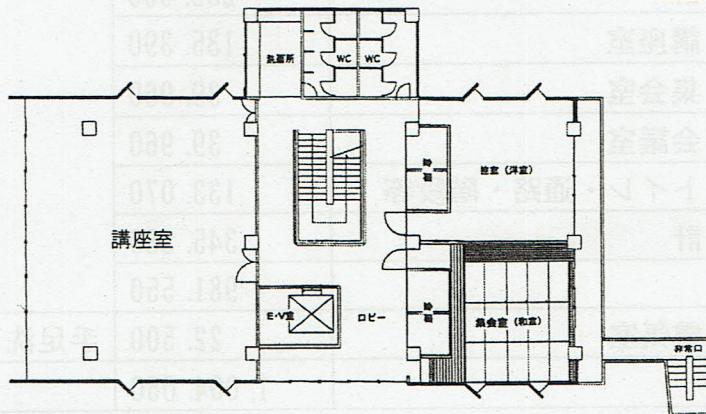
1階



2階



3階



天神島ビジターセンター各階平面図

第3章 天神島ビジターセンターの利用状況に関するアンケート 調査結果及び計画への反映状況

天神島ビジターセンター配置適正化実施計画の素案策定にあたり、「適正化計画」における廃止（100%縮減）案という方向性に対する考え方をまとめる上で、基礎資料となる天神島ビジターセンターの利用実態に関するアンケート調査を、次のとおり実施しました。

1 調査の概要

(1) 調査対象者及び調査方法

- ア 天神島ビジターセンター及び天神島臨海自然教育園と横須賀市自然・人文博物館本館の来館・来園者を対象
- イ 天神島ビジターセンター1か所、天神島臨海自然教育園北口1か所の他に、本館3か所にアンケート用紙を配置し、それぞれに回収箱を設置して回収

(2) 主な調査項目

- ア 天神島臨海自然教育園と天神島ビジターセンターの利用回数
- イ 天神島ビジターセンターの利用目的と利用する上での期待度
- ウ 天神島ビジターセンターの利用価値
- エ 回答者のプロフィール等

(3) 調査期間

平成28年（2016年）6月1日（水）～6月30日（木）

(4) 回収状況

施設名	回収件数	期間中の来館（園）者数
天神島ビジターセンター	149件	2,488人
天神島臨海自然教育園北口	30件	2,280人
横須賀市自然・人文博物館	55件	4,511人
合計	234件	9,279人

2 調査結果の概要

- (1) 天神島ビジターセンター及び自然教育園の利用状況について、3施設でのアンケート調査全体で3割以上(35.4%)、利用者に限れば約4割の方が複数回利用しています。このことから、“(10)”の利用者の住まいと合わせ、市外在住者を中心にリピート効果を期待できる施設とみなすことができます。
- (2) 一方で、博物館本館のアンケート調査では、約4割の方が天神島ビジターセンターを利用していないことが明らかになりました。このことは、天神島ビジターセンターの市民の利用度が低い結果を反映しています。
- (3) 天神島ビジターセンターの利用者は、100%天神島臨海自然教育園も利用していますが、一方で天神島臨海自然教育園のみの利用者がいます。
- (4) 天神島ビジターセンターの利用目的では、利用したことがある方の49.5%にあたる103人が「展示の見学」と回答しています。施設の利用としては、「トイレ・水道の利用」や「駐車場の利用」が多く、今後もそれらの目的で利用したい意見が多く寄せられました。
- (5) 「団体での利用」「イベントの参加」を目的に利用した方も多く、これは回答者が講座室等で天神島ビジターセンターの施設を利用したことを示しています。
- (6) その他の利用目的では、「情報収集」、「休憩」、「研究活動」が多く、ビジターセンターが持つガイダンスや休憩場所、学術研究の場としての機能も重要であることがわかりました。
- (7) 多くの利用者が今後も天神島ビジターセンターを「ぜひ利用したい」または「利用したい」と答えています。
- (8) 自由意見では、貴重な場所、素晴らしい自然との触れ合いができる、市民にとって大切な教育施設、イベントの継続希望など、施設の存続に対して好意的な意見が多く寄せられました。その一方で、施設の存在を知らなかったなど、PRやアクセス情報の不足について指摘がありました。
- (9) 利用者の年齢を20歳未満(“全体”26.5%—“天神島ビジターセンター”29.5%)、20~30代(同様に24.8%—34.2%)、40~50代(同様に23.1%—23.5%)、60歳以上(同様に20.5%—11.4%)で区分すると、各世代に分散していることが明らかになりました。また、プロフィールや性別についても大きな偏りがない傾向が伺えます。
- (10) 利用者の住まいについては、市内が2割以下で、多くが市外であることが改めて証明されました(市内在住者は3施設全体で19.7%、天神島ビジターセンターでは6.7%、天神島臨海自然教育園では13.3%)。
- (11) 家族での利用者が多く、天神島ビジターセンターの調査結果からは、様々な世代の家族構成での来館・来園者が多い。

3 調査結果の計画への反映状況

調査の結果、

- ① 全体で9割近くの利用者（88.5％）が、天神島ビジターセンターでは9割を超える利用者（90.6％）が、天神島ビジターセンターを「利用したい」「ぜひ利用したい」を選択していること、
- ② 展示の見学を目的とする利用者が多いこと、
- ③ 続いて、トイレ・水道の利用や休憩、情報収集、研究活動を目的とする利用者が多いこと、
- ④ 市外からの利用者が多いこと、特に天神島ビジターセンターのアンケートでは9割を超えていること、

などが明らかとなりました。

これらのうち“③”については、自然教育園内のトイレが、老朽化により平成25年度に撤去されたことから、同教育園の管理運営上、来園者用のトイレの設置は不可欠であると判断されます。また、園内には日除けがないことから、特に夏季における休憩場所としての利用も見逃せません。

今回のアンケート調査からは、利用者の多くが期待する展示教育機能と便益機能の充足を目的として、廃止（100％縮減）から施設の建て替え等、計画の見直しの必要性に反映されたものと評価します。

種別	001～010 (児童)	011～020 (児童)	021～030 (児童)	種別	種別
001	0	0	0	001	0
002	0	0	0	002	0
003	0	0	0	003	0
004	0	0	0	004	0
005	0	0	0	005	0
006	0	0	0	006	0
007	0	0	0	007	0
008	0	0	0	008	0
009	0	0	0	009	0
010	0	0	0	010	0

第4章 施設配置適正化への取り組み

1 平成64年度までの目標およびそれに向けた考え方

- ・ 建築後70年目を迎える平成48年度（2036年度）まで、天神島ビジターセンターを維持して活用していくために、必要な改修等を実施します。
- ・ 平成48年度には天神島ビジターセンターを建て替えます。
- ・ 天神島ビジターセンターが建つ土地については、神奈川県との無償貸与契約の継続について調整していきます。

(1) 期間別の考え方

施設名称	H29～H36 (中長期)	H37～H46 (長期)	H47～H64 (超長期)
天神島 ビジター センター	大規模改修（建築） ※屋上防水 ※外壁改修	(民間活力の利用)	施設の建て替え

(2) 事業費及び財源内訳

(単位：千円)

		H29～H36 (中長期)	H37～H46 (長期)	H47～H64 (超長期)	計	
改修	事業費	40,248	0	69,012	109,260	
	財源内訳	国、県支出金	0	0	0	0
		市債	40,200	0	69,000	109,200
		その他	0	0	0	0
		一般財源	48	0	12	60

※超長期の建て替え事業費は、馬堀自然教育園学習棟（平屋建て149.5㎡）を参考とした。

2 見直し計画の策定

- ・ 天神島ビジターセンターの利用者の特徴として、市外在住者が多い点を評価し、市外からの集客力の向上につながる工夫や民間活力の導入などによる収益性の確保を検討します。
- ・ それと共に市内在住者に対しても天神島ビジターセンターならびに天神島臨海自然教育園が持つ価値と魅力を広めていきます。

- 施設の建て替えにあたっては、博物館のサテライト施設としてのビジターセンターの機能を残しつつ、民間活力による利用について検証した結果を踏まえて、検討します。
- 施設の規模については、「適正化計画」の目的に基づき、縮減率をできるだけ大きく確保することに努めます。

3 平成 33 年度までの目標および具体的なスケジュール・実行計画

- 神奈川県が実施した大規模改修から 20 年が経過する平成 30 年度（中長期）を目安に屋上防水・外壁改修工事を実施します。
- 来館者の増大を目標とし、民間活力の導入など幅広い利活用を検討します。

年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34～
具体的な スケジュール		屋上防水・外壁改修 →				
		集客力向上と民間活力導入の検討 ----->				

